



■下記の5つの津波を想定津波とし、各市町村毎に影響の大きい5つの津波を選定し、それぞれ構造物の「効果あり」・「効果なし」の2パターンでのシミュレーションを行いました。(全6ケース)  
 ■この図には、全6ケースのうち、最大の浸水範囲、最大浸水深(注1)を表示しています。  
 ■また、代表地点周辺における最大遡上高(注1)および津波到達時間(±20cm、+50cm、第1波)を表示しています。(注2)  
 ■地元の施設が想定より陸地に近かったり、想定を超える津波が来襲するなど、条件が異なる場合には、ここで示した時間より早く津波が来襲したり、遡上高が高くなったり、浸水範囲以外でも浸水する可能性があります。  
 【シミュレーション条件】  
 (1) 想定津波  
 ①沖繩本島 北方沖 の想定地滑津波  
 ②沖繩本島 南東沖 の想定地滑津波  
 ③沖繩本島 南西沖 の想定地滑津波  
 ④久米島 北方沖 の想定地滑津波  
 ⑤久米島 南東沖 の想定地滑津波  
 (2) 構造物  
 効果あり 防波堤、海岸防衛、防潮堤、河川堤防などの施設が、全て有効に機能したケース。  
 効果なし 防波堤、海岸防衛、防潮堤、河川堤防など施設の機能が失われたと想定したケース。  
 (3) 潮位  
 潮位平均高潮位 (各月の最高高潮位を平均した潮位)

※注1 最大遡上高と浸水深(図1参照)  
 最大遡上高は、各地区で津波が到達する最高の標高です。  
 浸水深は、各地の地面からの水面の高さです。  
 ※注2 影響開始時間(±20cm、+50cm)と津波到達時間(図2参照)  
 影響開始時間は、地震発生から、沿岸・海域の人命に影響が出る恐れのある津波による水位変化(初期水位から水位変化が±20cm)が生じるまでの時間です。また、図中では、避難への影響がでる恐れのある初期水位からの水位上昇が+50cmに達する時間も表示しています。  
 津波第1波到達時間は、地震発生から、津波第1波のピークが沿岸に到達するまでの時間です。

